

道徳の時間学習指導案

三次市立田幸小学校

- 1 学年 第6学年
- 2 主題名 「かけがえのない家族」 内容項目4-(5)
- 3 ねらい 坂道を走り続けるまきの気持ちを考えることを通して、家族みんなの状況や気持ちを思いやることの大切さに気づき、家族の一員として自分ができることをしていこうとする心情を育てる。
- 4 資料名 「はじめてのアンカー」 出典(文部省・小学校読み物資料)
- 5 主題設定の理由

(1) 主題について

人は家族の中で育つ。家族とのかかわり合いの中で思いやりの気持ちや情愛などが育てられていく。しかし、ともすれば子どもは家族の愛情を一方向的に受ける側の立場が多くなり、自分から主体的に家族としての役割を担うことが少ない傾向にある。よりよい家庭を築くためには、家族が深い信頼と絆で結ばれていることについて考えを深めていくことが大切である。父や母、祖父母、兄弟姉妹などの状況や気持ちを思いやり、支えてくれる家族のために自分ができることをしていこうとする心情を育てたいと考え本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、明るく素直でいろいろなことに対して前向きに取り組むことができる。6年生という多感な時期であるが、家族ともよく話をしている児童が多く、家族に喜んでもらえることが嬉しいと感じている児童も多い。しかし、家族の思いに気づかず、してもらって当たり前と思っている様子も見られる。

アンケートの結果、「家族がいてよかったと思うこと」では、「楽しく食事をするとき」7人、「困ったとき相談できる」4人、と答えている。「家族がいやだなと思ったこと」では、「けんかをしたとき」「しつこく言われたとき」等、自分のことがわかってもらえなかったり自己中心的な考えが優先したりすることをあげている。また、「家族のためにしていることがありますか。」では、全員が風呂掃除や料理の手伝い等の仕事をしていると答えている。

(3) 資料の概要

本資料は、小学校最後の運動会を明日にひかえた6年生のまきが主人公である。家族のことを思いながらも漁に出る父に対して、周りの家族の言葉を通して真意を理解していく主人公の心情が描かれており、家族の一員としての在り方を考えさせることができる。また、似たような経験をしている児童にとってはイメージしやすく、自分と重ねて考えられると思われる。自分と家族のつながりを見つめ直す中で、家族における自分の生き方を考えさせるのに適した資料である。

(4) 指導の工夫

とらえる場面では、運動会を一度も見に来られなかった父が見に来てくれること、初めてリレーのアンカーに選ばれたこと、小学校生活最後の運動会であることなど、主人公まきの喜びと期待に十分共感させる。そして、突然父が仕事に行くことに対して素直に理解できないまきの心を見つめさせたい。そのために挿絵やキーワードを提示したり心情曲線を描いたりすることで共感的理解を深められるようにする。

深める場面では、祖母や母の言葉を聞き、父のつらい気持ちに気づき、自分の行動について考え、葛藤しているまきの心の変容を考えさせる。中心発問では、まず書く活動を取り入れ、自己内対話をさせる。考えを伝え合う際には、自分の考えと比べながら聞き、多様な考えに気づかせる。そのために意図的指名や板書の工夫を行いよりよい生き方を考えさせたい。また、補助発問で「てるてるぼうず」にこめられた思いを考え合うことにより、家族が相互に信頼関係と深い絆で結ばれていることや、自分にできることをしていくことが家族の幸せにつながることに気づかせ、価値の自覚を深めたい。

終末では、事前に保護者をお願いして書いてもらっておいた手紙を読むことにより、家族の自分への愛情を感じ取り、自分も家族の一員として役に立つことをしていきたいという思いを深めたい。

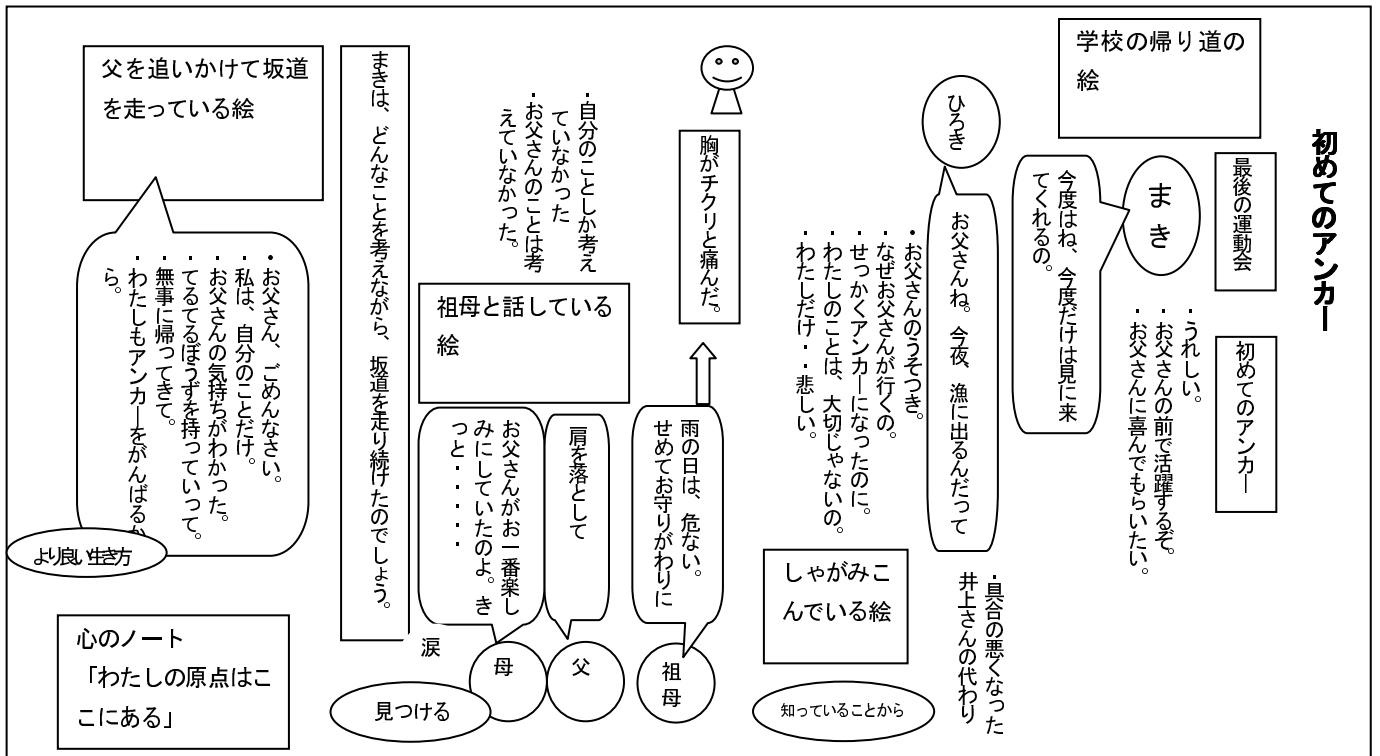
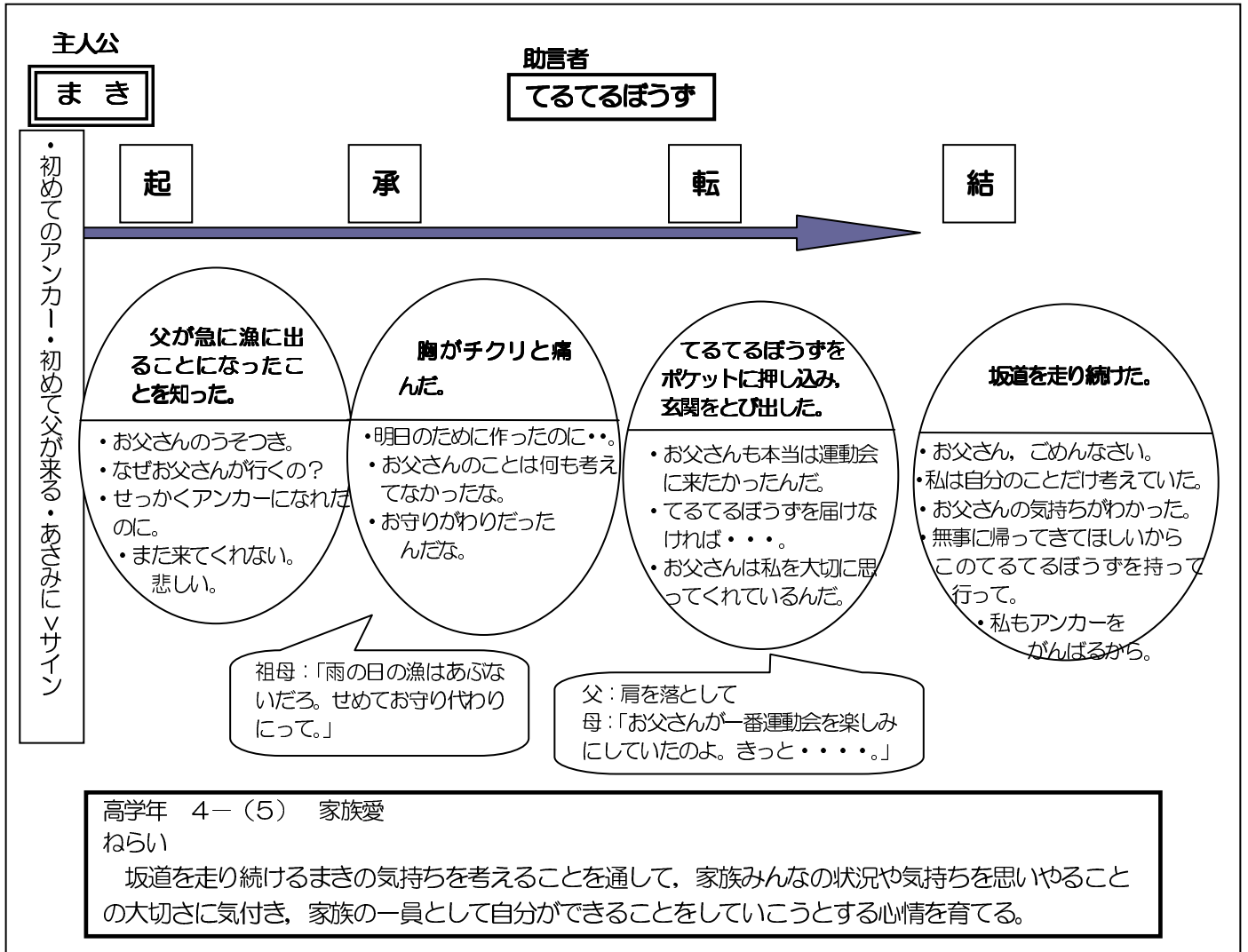
事後の活動として、家族に手紙を書き感謝の思いを伝えることにより、絆を深めると共に実践意欲を持たせていきたい。

(5) 「いのち育みプログラム」との関連

家族とのつながりについて見つめさせる。事前の活動としては、家庭科「生活に役立つものを作ろう」を取り上げた。家族の中の自分を見つめさせることで家族に支えられていることに気づき、家族のことを考えて実践する喜びを味わわせる。事後の活動では、家族の手紙に返事を書く活動を行う。家族の思いやりや愛情を受け止め、家族の幸せのために主体的に考えて行動しようとする態度を育てたい。また、もうすぐ修学旅行であることに関連させ、感謝の気持ちを持ち自分にできることは何かを考えさせたい。

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点 (○支援 ☆児童への評価の観点)
	1 今までの経験を思い出す。	○家族のためにしていることがありますか。	
展	2 資料を読んで話し合う。 ①今年の運動会に対するまきの思いを考える。	○「はじめてのアンカー」を聞いて話し合しましょう。 ○まきはどんな気持ちでVサインを出したのでしょうか。 ・最後の運動会だからしっかり走るぞ。 ・はじめてアンカーに選ばれたからがんばろう。 ・お父さんが初めて見に来てくれるからうれしい。 ・お父さんの前で活躍するぞ。 ・お父さんのために頑張って走って喜んでもらいたい。	○資料は、全文提示をする。 ○最後の運動会に、初めて父が応援に来てくれるまきの期待と喜びに共感させる。
開	②父が漁に出ることを知ったときのまきの気持ちを考える。	○急に漁に出ることになって、まきはどんなことを思っているでしょう。 ・お父さんのうそつき。来てくれるって約束したのに。 ・なぜお父さんが行かなければならないの。 ・漁を断ればいいのに。私のことは大切じゃないのかな。 ・せっかくアンカーになれたのに。お父さんが見に来てくれないなんて悲しい。 【し・知っている(経験)ことから】 ○まきの胸がチクリと痛んだのはどうしてでしょう。 ・自分のことしか考えていないことに気付いたから。 ・お父さんのことは考えていなかったことに気付いたから 【み・見つける】	○急に具合が悪くなった人の代わりであることを押さえた上で、突然約束が果たされなくなったときのまきの憤りや不満に共感させる。 ○自己中心的な考え方や行為をしている自分に気付き始めているまきの気持ちを考えさせる。
	③坂道を走り続けるまきの気持ちを考える。	○まきは、どんなことを考えながら坂道を走り続けたのでしょうか。 補) てるてるぼうずには、どんな思いが込められているのでしょうか。 ・お父さんにてるてるぼうずを渡したい。 ・「行ってらっしゃい。」を言わなくてごめんなさい。(基) ・お父さん、ごめんなさい。私は自分のことだけ考えていたよ。 ・私だけががっかりしていると思っていたけど、一番つらいのはお父さんなんだ。(主) ・お父さん、無事に帰ってきてほしいからこのてるてるぼうずを持って行ってね。 ・お父さんは、自分の役割を果たそうとしているんだね。私もアンカーを全力でがんばるからね。(客) 【よ・よりよい生き方を比較して考える】	○ワークシートに書くことにより、自分の考えを持たせる。 ○父を気遣い、喜ばせるために自分にできることをしようとしているまきの考えの変化を押さえ、ねらいとする価値に迫っていく。 ○ペアや全体で話し合うことにより、多様な価値観に触れさせ、自分の考えを深めさせる。 ○意図的指名や板書の工夫を行い、よりよい生き方を考えさせる。
終	3 家族からの手紙を読む。	○家族から届いた手紙を読みましょう。	☆家族の自分への愛情を感じ取り、大切な家族のために自分にできることをしていくことの大切さに気付くことができたか。
末	4 詩を聞く。 5 振り返りを書く。	○『わたしの原点はここにある』をいう詩を聞いてください。 ○今日学習して心に残ったことや大切だと思ったことを書きましょう。	

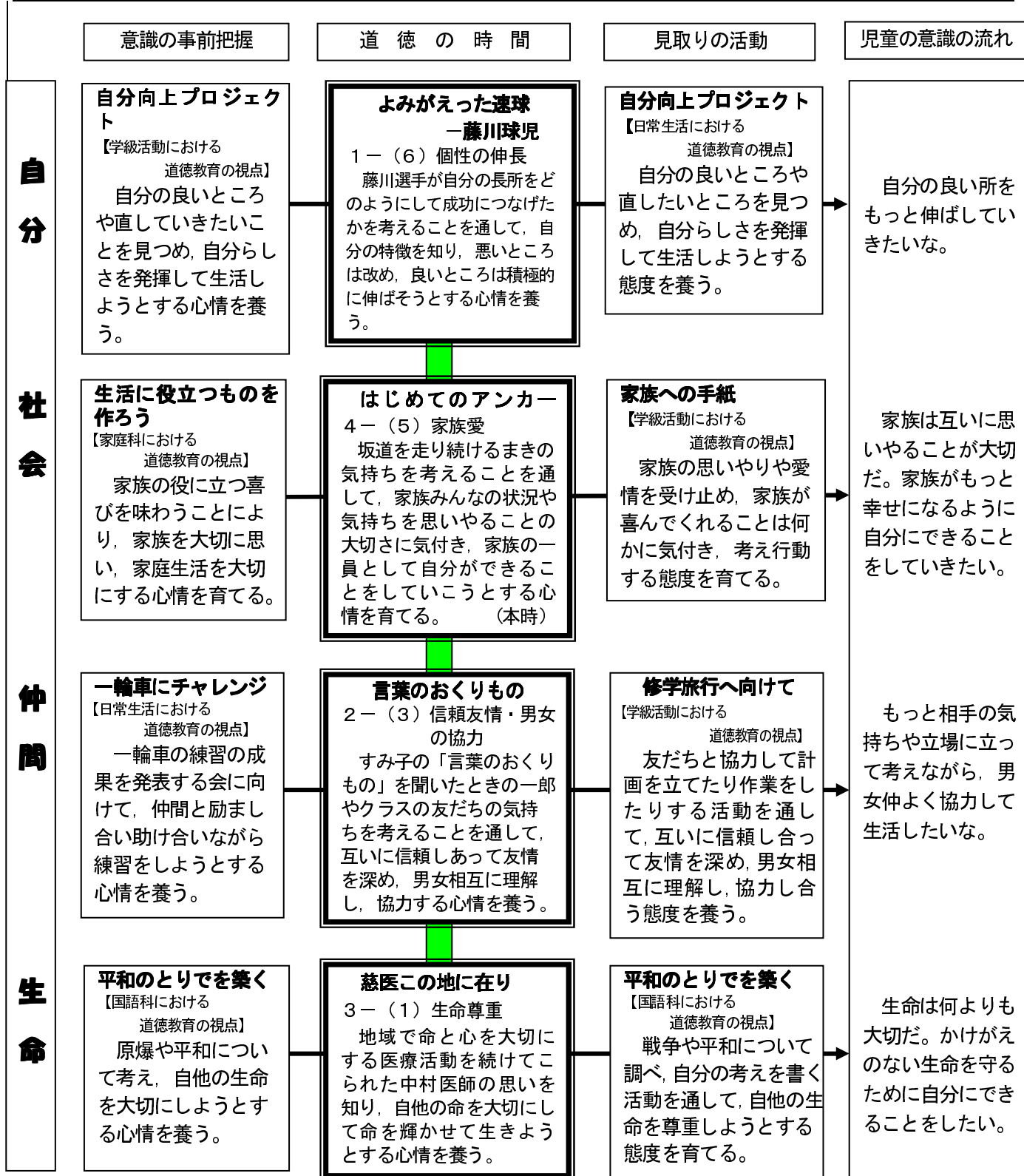
言語活動の充実



自分からつながる命～自分・家族・友だち・地域とのつながりをみつめよう

ねらい

自分は多くの人とつながり合っていることに気付き、自他の生命を大切にするために、自分から人につながり、できることをしていこうとする態度を育てる。



自分はたくさんの人とのつながりの中で生きている。自他の生命を大切にするために自分から行動したい。